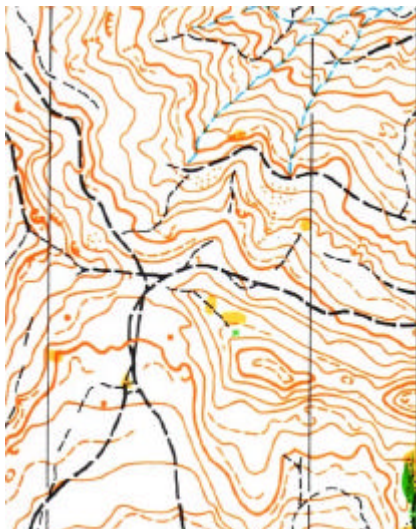


なぜ、ヨーロッパ人はオリエンテーリングが速いのか？
我々日本人に欠けているモノは何なのか？
そのヒミツをルーマニアで見つけることができるかも知れない。

なぜに彼らは速いのか？

前回は、ルーマニアという国の人柄土地柄について紹介させていただきました。今回はルーマニアのスポーツ事情について、主観を交えてお伝えします。「へえ、こんな環境なのか！」と興味を持っていただけますと嬉しいです。特に、なんで彼らは強いのか、という点にご注目ください。



ルーマニアのテレイン。通行可能度が良く地形は尾根沢がはっきりとしている。

ルーマニアのプロ選手

まず、OLについていうと、トップの選手はたぶん、ほとんどが軍人です。軍人だから速いというより、速いから軍人になるという感じのようです。軍人である友人のOLトレーナー兼選手は2-3週間のOLキャンプと大会遠征をほとんど毎月行っています。それが彼らの「仕事」。共産主義から脱出して14年しか経っていないルーマニアでは、プロというのだけれど国が地域レベルからの予算をもらっている人のこと

を指すようです。

東欧の例に漏れず、ルーマニアはスポーツが盛んな国です。マラソンとか新体操とか。理由は簡単、ほかにやる事が無いからです。冬は雪と寒さで屋外に出られない、他に娯楽がないとなると、屋内で体一つでできる新体操なんて最適なのではないですか。

また、失業率実質15%を超える環境の中で、プロスポーツ選手になって一攫千金を狙うというのは決して特別な選択肢ではないのです。失業中でぼーっとしているのか、プロを志して個人でトレーニングしているのか、なんて、傍目にはほとんど一緒に見えますけどね。失業者でなくても、仕事をリタイアした人が自分のクラブを作って、地域の子供などを連れてスポーツに行くのはよく見る光景。私がルーマニアでOLやカントリースキーをするときはだいたいそんな彼らについて行きます。

地域クラブでのスポーツ事情

その日も、私はエミール(軍人兼トレーナー兼選手。現在リタイア検討中)と、彼の同僚ラドゥと「どこまで続くんだろう？」という山肌を登り(山道ではない!)高地にある天然のカントリースキー場にきました。と、遅れて子供たちも到着。気温-5を切る中、林の中で軽く着替え、練習開始。生まれて3度目のカントリースキーに手間取る私に話しかけてくれる子供なんて一人もいません。ていうか、皆無視。そう、下手だと仲間に入れてくれないのです!今日は、高地の2KM程度のコースを何度も往復するのがメニューのよう。黙々とやっていると次々と子供たちが私を追い抜いていきます。



スキーの練習は開けた広い尾根線上で。果てしなく練習中の子供が先のほうでゴマ粒のように見える。

と、彼らの足元を見てビックリ!!なんと左右のスキー板が違う子が結構いるのです。そんなんでスキーってできるんでしょうか?長さが違ってバランスとれるんですか?服だって、よくそれで、-20を切ることもある外に親が出したなというシロモノ。ペラペラしているんです。断じてスポーツウエアではない。

そして、私は思い出しました。

もう20年くらい前に、カントリースキーに行ったときの写真というものを、エミールに見せてもらったことがあったのです。彼は自分の奥さんの足元を指し、「この時履いていたシューズはサイズが5つも大きかったんだよ」と一言。

サイズが5つも大きいスキーシューズって??と私はげげんな顔。ルーマニアがセンチ単位かインチ単位かよく知りませんが、とにかくクバクバだったはず。「スキーブーツの中では足が泳がないように・・・」なんていう注意をされながら慎重に靴選びをしてきた私には、「それじゃあ、危険だろっ!」という心の突っ込みばかりが空を切るのでした・・・。



-5以下の中、木陰で素早く着替える。ルーマニアに1週間もいると5も暖かを感じる。

「大会に出る」ということ

日頃の練習では、サイズ違いや形違いの靴や道具を使っている、一旦代表に選ばれてちょっとした大会に出るときは、彼らには立派なウエア等が国から支給されます。(これらはあくま

でも借り物で、大会後は要返却。会場で、ルーマニア選手にウエアの交換を持ち掛けたにも関わらず断られた経験がある人もいるのでは？ それはそういう理由なんです。）

さあ、皆さん。今までサイズ違いの靴で走ってた彼らが、最新のサイズピッタリの靴を履いたとたん、大会での記録が抜群に伸びるのは当然という気がしませんか？

人間ですから、大きな大会で国や地域の代表として出る以上、緊張するのは誰しも一緒です。緊張がプレッシャーとなって日頃の力が出ない、というのが私達日本人によくある問題ですが、一方でルーマニアの場合、緊張のために失われる力より、断然大きな力が具体的に与えられます。靴やウエアや道具など、スポーツをする上で直接的な影響があるモノのレベルが抜群に向上したら、使い手の記録が日頃より向上するのは当然ですよ。それが彼らの本番の強さを作ってるんじゃないかと思えてなりません。

ルーマニアで取り戻す感覚

ルーマニアの一人当たり GDP は 2000 ドル程度。日本の約 15 分の一です。彼らの本番での強さをその貧しさがハングリー精神に結びついて・・・というありがちな精神論に落とすこともできますが、コトはきつともっと簡単です。

日頃、道具に頼らない練習をすること。彼らの場合、これに尽きると思います。

初めてカントリースキーをやったとき、数メートルも経たず転倒してしまう私は、エミールに「靴がグラグラしてしまっとうまくスキー板に乗れない」と訴えたことがあります。それに対し、エミールは私の履いていた靴と板をじっくりとチェック。そして「靴も板も悪くない。悪いのはお前だ！」と言い捨てました。はるばる日本から数年ぶりに会いに来た友達を無理に連れ出しておいてその発言は・・・という問題は別にして、私は無意識にうまくできない理由を、スキーシューズに求めていた自分に気づいたのでした。

ちょっとお金を出せば、いい道具を揃えられる日本で生きてると、無意識に道具に頼る生き方になってしまいます。スポーツでもそう、きっとそれ以外でもそういう生き方になっている。ルーマニアに行くと、つくづくそんな事実気づかされます。

ルーマニアに行こう！

というわけで、本題です。

こんなルーマニアを、今年もしくは今後の海外遠征の一環に加えてみませんか？

ブカレスト・オトベニ空港もしくはブカレスト・ノルド駅まで来ていただければ、エミールか彼の奥さんかまたはまた他の愉快的仲間があなたを迎えに行きます。それ以降はずっと皆さんにアテンドして楽しい旅行と安全をお手伝いします！

価格：全てブカレスト駅または空港が始終点となります。全て現地で直接手払いです。

ルーマニアへオリエンテーリングをしに行く場合

1日につき、50USD。

宿泊・三食・OLに関する国内交通費含む。OL大会に参加する場合は参加申込費別途。できれば2人からの参加が望ましいです。どんなことをしたいのか、ご相談ください。大会参加・トレーニング・地域クラブメンバーとの練習会参加・・・など。

ルーマニアへ観光旅行に行く場合

1日につき、100USD。

宿泊・三食・旅行に関する国内交通費含む。1人からの参加も可能。大人数も歓迎です。どんなところに行きたいのか、ご相談ください。

連絡先 八尋弓枝 090-6471-7083

yumieyahiro@yahoo.co.jp

茨城県ひたちなか市在



(八尋弓枝)



ルーマニアの山の上の高台から早朝の村を見下ろす。